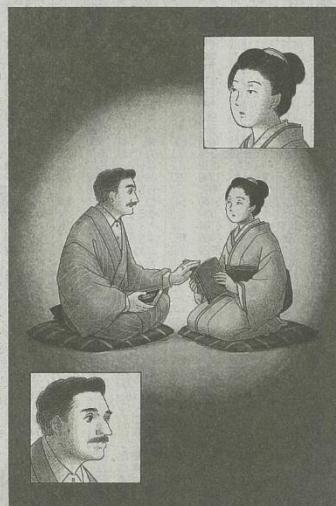


令和7年9月9日(火)付

セツの生き方 子どもたちに



【小泉セツとハーリンの物語】の挿絵(長田結花さん作)
少年写真新聞社提供)

『小泉セツとハーンの物語』

『小泉セツとハーンの物語

先日、松江市役所に行って驚きました。総合案内の横にラフカディオ・ハーンの妻である小泉セツさんの画像があり、そのセツさんは口をぱくぱく動かして出雲弁を話しているではありませんか。

もちろん、これは生成AIのおかげです。昨年から小泉八雲記念館で始まった小泉七ツの企画展、今年の秋から放送予定のNHKの朝ドラ「ばけばけ」と、ここのこところ小泉七ツへの関心が高まっています。

『小泉ゼツとハーレンの物語』 小泉八雲「怪談誕生」みつ』は、そうした時流ぴったりの児童書です。やらしい言葉づかいで、漢字にルビがふってあり、挿絵や表も豊富です。子どもたち大人も、楽しく読むことができる一冊です。

著者の三成清香さんはハーンの研究者で、島根の出身です。3年前にUターンして島根県立大学松江キャンパスで一緒に働いています。外人による日本語を教える資格

はさに語は図そと一でス國民は、本書は、史実に基づきながら、ときには想像力を働かせて、セツの内面に入り込み、ところどころでセツの息づかいが聞こえてくるようです。没落した武士の家に生まれ、貧しい暮らしの中で懸命に家族を支える姿、幸せとはほど遠かだった最初の結婚、そしてハーネンとの出会い。。セツに比重を置いた本書は、小泉凡さんがハーネンにな持つていて、三成さんがセツに関心を寄せるのもうなづけます。

についていつそ
ります。セツとハーネの
て、三成さんが注
てているのはふた
二ケーションの取
日本語を話すセツ
すハーネは、試行錯誤
「ヘルンさん言葉
る独特の日本語の
つて意味疎通を図
りました。

う理解が深
関係について書い
自して書い
りのコミュニ
トです。英語を話
と英語を話
錯誤を経て、
「と呼ばれ
使い方によ
るようにな
るようにな
で語ることで
すく言うと、そのおはなしを
よく味わい、自分の頭でよく
考えたうえで語りなさい、と
セツとハーネの「コミュニケ
ーションについて、三成さん
はもうひとつ大切なことを書
いています。セツがハーネに
おはなしを語って聞かせる時
に、ハーネがセツに求めたの
は、本当に書いてあることや聞
いたことをそのまま語るので、
はなくて、「あなたの話、お
なたの言葉、あなたの考え方
で語ることでした。わかりや
くおはなしを語ること

自分の心で感じて読んで

のようにです。ハーンの残しき語談の多くはセツがハーンに語つて聞かせたものがもとつまりハーンはセツに、自分の心を大切にしなさいと言いたかったのです。『雪女』

りきつて書いた児童書『小泉八雲と妖怪』（玉川大学出版部、2023年8月刊行）と合わせて読むと、七ツとハーハーになっていますが、その際にもふたりは「ヘルンさん言葉でやりとりしながら、怪談についてより深く理解しよう」と

—小泉八雲「怪談」誕生のひみつ—』刊行に寄せて（岩田英作）

りきつて書いた児童書『小泉八雲と妖怪』（玉川大学出版部、2023年8月刊行）と合わせて読むと、settō-ha——についてより深く理解しよう。

(島根県立大学松江キャンパス副学長 専門は日本近代文学・児童文学)
（少年写真新聞社・1760）

令和7年9月17日(水)付

侵攻前のウクライナ、ロシア

子どもの絵に平和感じて



ウクライナとロシアの子どもたちが描いた絵を整理する学生たち—松江市浜乃木7丁目、島根県立大学松江キャンパス

松江で島根県立大生が企画展 あすから

戦後80年の節目にあらためて平和を希求しよう
と、松江市の島根県立大人間文化学部の学生が、戦
時に置かれるウクライナとロシアの子どもたちの
絵を展示する企画展を18日から、松江市殿町のカラ

軍事侵攻から3年半が過ぎても、解決の見通しが立たない両国の子どもたちに思いをはせ、保育教育学科の美術教育学研究室(福井一尊教授)に所属する3、4年生7人が7月ごろから準備を進めてきた。

□□工房地下ギャフリーで開く。ロシアがウクライナへ軍事侵攻する前の日常を描いた作品を通じ、平和の尊さを感じてもらつ。

(増田枝里子)

ウクライナから40点、ロシアから40点の計80点を公益財団法人美育文化協会を通じて取り寄せ展示する。(1)は、80年前の日本の戦い攻前に描かれた町の様子や家族、身近な動物、絵本の一場面など、両国の子どもたちの「日常」がクロ

たちが描く、色鮮やかで明るい生活に思いをはせてほしい」と呼びかけた。

入場無料で24日まで。会期中の20日は、午後2時から日本でもおなじみのロシアの昔話「おおきなかぶ」や、ウクライナの民話「てぶくろ」などを紹介し、背景の文化を解説する「読み聞かせ&トーク」、23日午後2時からは、「島根に残る戦争の痕跡」と題したトークショード写真展を同時開催する。

午前10時～午後6時。問い合わせは同研究室、メールfukui@u-shimane.ac.jp